

留学生は言いたい日本語をどう見つけるのか —留学生の文章産出時における辞書使用の実態調査—

鈴木智美 (東京外国語大学)

1. 研究の目的

本研究は、世界各国・地域より日本の大学に留学し、日本語を学習している学習者を対象に、その「辞書使用」に関する実際の学習行動を詳細に見ることによって「留学生は、言いたい日本語をどう見つけるのか」を実証的に探ることを目的としたものである。

2. 研究の方法

まず大学レベルの日本語プログラムで日本語を学ぶ留学生を対象に^{注1}、辞書使用全般についてのアンケート調査を行い、さらに文章を書くことに特化し、学習者の辞書使用行動を確認するためのインタビュー調査を行った(全調査期間:2010年7月~2011年8月)。

アンケート調査については、計42の国・地域にわたる初級から超級レベルまでの117名の回答者から回答を得^{注2}、うち中級から超級レベルの8名の学習者を対象に個別のインタビュー調査を実施した。本発表では、インタビュー調査の結果部分について考察を行う。

3. インタビュー調査の結果からの考察

表1 インタビュー調査対象者

日本語レベル	国籍	母語	性別
上級~超級	ポーランド	ポーランド語	女
上級~超級	ベトナム	ベトナム語	女
上級~超級	ベトナム	ベトナム語	女
上級~超級	チェコ	チェコ語	男
上級	ポーランド	ポーランド語	女
初級~中級	中国	中国語	女
超級	インド	ヒンディー語	女
上級~超級	ルーマニア	ルーマニア語	男

インタビューを通じて、日本語学習者の文章産出時の辞書使用をめぐっては、以下の各点が特徴的な点として浮かび上がってきた。

(1)辞書を使うことの意義:自律的な学習姿勢を持つ学習者にとって、辞書を使うことは

日本語の学習活動そのものである。

- (2)書く活動の基盤:インプットとなる素材・資料をまずよく「読む」ことを通じて、「書く」活動のための準備が行われている。
- (3)文法・語彙の基礎的知識:文法・語彙の基礎的知識は辞書の記載内容を応用する際に必要である。
- (4)漢字の知識:漢字を、漢語を構成する要素(字音形態素)として認識すれば、的確な漢語表現を辞書から探し出す際に役立つ。
- (5)既習の語彙知識:類義語や反義語だけでなく、広い意味での関連語に関わる知識は言いたい表現を探し出すのに有用である。
- (6)良質な例文:実際の「使い方」を示すため、辞書には、基本的な語彙を用い、文法構造が明確な、コロケーション情報を含み統語的・意味的な文脈の多様性をおさえた例文が豊富にあることが求められる。

4. 今後の展望

学習者の文章産出に「辞書」を的確に生かすためには、文章表現カリキュラムにおいて実際に辞書使用の「スキル養成」を取り入れていくことが効果的ではないだろうか。学習者が日本語を使って何ができるのかを示す「Can-do statements」の観点からは、学習者の「書く」活動に関わる方略として、例えば中級レベル以上を目安に「辞書を使用し、的確な表現を探し出すことができる」等の記述を加えることも検討に値すると思われる。

注1:東京外国語大学「全学日本語プログラム」(JLPTUFS)の受講者を対象に調査を行った。

注2:アンケート調査の詳細は鈴木(2012)を参照。

【参考文献】

鈴木智美(2012)「留学生の辞書使用についての実態調査—東京外国語大学で学ぶ留学生へのアンケート調査の結果と分析—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』第38号, pp. 1-16